

校長 橋本 忠

夏休みが終わり、第3ステージのスタートです。

耐震補強工事のために例年より長い41日間の夏休みが終わり、生徒たちの元気な笑い声が教室に戻ってきました。今年も本当に暑い夏でしたが、事故や大きなけが・病気の報告もなく、充実した夏休みを過ごしたようです。7月20日の耐震工事のための荷物の移動には、1、2年生の保護者の皆様にご協力いただき、本当にありがとうございました。8月31日には再び、保護者の皆様のお力をお借りしないといけません。3年生の保護者の皆様よろしくお願ひします。

第3ステージは「感動ある栄中祭を創り、集団を高めるステージ」というスローガンの下、合唱づくりを通して、学級の絆を強める時期です。夏休み前にも各学級から練習の歌声が響き始めていましたが、これから大きな渦となって学校全体が歌声に包まれてくると思います。10月11日の栄中祭本番では、生涯学習センターのホールいっぱい素晴らしい歌声が響き渡ることを期待しています。

3年生にとっては、いよいよ進路決定を具体的に進める時期になってきました。自分の進路決定のための近道は、やはり日々の授業を大切にすることや家庭学習において地道な努力を積み重ねる以外にはないと思います。

1、2年生にとっては部活動や生徒会活動において、中心となる時期となりました。9月28、30日には新人戦が行われます。各部の健闘を期待しています。また、9月18日には生徒会選挙が行われます。生徒会においても1、2年生が学校全体を引っ張っていくときになります。すばらしい栄中の伝統を継承していけるよう1、2年生の頑張りにエールを送りたいと思います。



この夏も部活動の各種大会での活躍が光りました。

- ◇7月25日に行われた小笠陸上大会では、陸上部のみなさんが自己新記録をねらって大変よく頑張りました。最後まであきらめずに頑張っている姿が印象的でした。
- ◇7月26、27日に行われた水泳県大会では松浦可苗さんが背泳100m、200mで2位になりました。掛川市教育委員会で行われた選手激励会にも参加し、東海大会での健闘を誓いました。8月8日名古屋日本ガイシアリーナで行われた東海大会では、2位に入賞することができました。大変素晴らしい活躍でした。

「玄會とは」(校長室入り口の額)

(一部省略)

夏休み明けの8月30日(金)の全校集会での話

……引っ越しの時の小さな発見をみなさんにお話したいと思います。

引っ越しの際に校長室に飾ってあった額も移動しました。普段この額は校長室の入り口の壁に掲げてあったのですが、この額に書かれている「玄會」という文字にどんな意味なのだろうとよく考えました。辞書で調べたり、インターネットで調べたりもしました。

ある時、国語の櫻木先生に「この『玄會』とはどんな意味なのでしょう」とたずねたことがありました。先生はすぐに調べて下さって、「『玄』という字には、悟りというような意味があるようです。『會』は会という字の旧字なので、『大きな悟りに至る』というような意味なのではないでしょうか。」と教えて下さいました。なるほどそういう意味かと合点がきました。

しばらく立って先日の引っ越しの日です。額を下ろして、運ぼうとしてふと額の裏を見ると何か文字が書いてありました。「癸亥冬日『深遠なるさとり』寄贈 影森 小谷撰岳 掛川市老連書道部師範」と。「癸亥(みずのとい)」が西暦を表しているとするので1983年、「冬日」は冬の日、1983年の冬の日にかかれたものではないかと考えられます。櫻木先生が教えて下さったとおりの意味でした。どんな意味なのかと思っていた疑問もすっきりしました。引っ越しがなかったらこの裏を見ることもなかったかもしれません。そして、30年前にこの文字を書かれた「小谷さん」とお会いできたような不思議な気持ちになりました。そして、書かれていた文字「深遠なるさとり」のように深い悟りができるように自分自身も日々精進して、心がけていかなければいけないなど感じたひとときでした。……

